

組合基本方針 ◎組合の団結と調和 日本一の工業団地を目指す！

高橋啓治様の功績

流山工業団地協同組合三代目理事長 高橋啓治さんが、令和2年12月8日ご逝去されました。享年80歳。あまりに突然なお別れでした。

高橋様は、当組合の理事長として16年にわたり牽引していただきました。その間は山あり谷にありでしたが、谷から登るときには、引っ張っていただける強いエンジンが必要で、高橋様には、何度となく牽引していただき、ご尽力をいただきました。15社の企業を取りまとめ、組合運営にご尽力を賜り、誠にありがとうございました。

高橋様は、そのリーダーシップをいかんなく発揮されて、組合にとどまらず、千葉県、全国とご活躍され、その多大な功績が認められ下記の表彰を受賞されております。

平成12年	5月	千葉県中小企業団体中央会会長表彰	組合功労者
平成17年	5月	全国中小企業団体中央会会長表彰	組合功労者
平成18年	6月	全国中小企業組合士協会会長表彰	感謝状
平成21年	11月	千葉県知事表彰	商工労政功労者
平成24年	1月	中小企業長官表彰	組合功労者
平成26年	11月	経済産業大臣表彰	組合功労者
平成27年	11月	流山市長	産業功労者
平成28年	5月	黄綬褒章 受章	

ここに組合員、事務局職員一同、深い哀悼の意を表します。

組合年度方針 組合ブランド力の情報発信
組合と新川耕地の経済と雇用の発展
新たなる方法による共同事業の検討
新型コロナウイルス感染症に関するあらゆる対策と対応

弔 辞

流山市産業功労者、故 高橋啓治様に、流山市民を代表し、流山市の産業発展のために御尽力いただきました御功績に対し、改めて敬意を表しますとともに、心から御冥福をお祈り申し上げます。

高橋様は、昭和41年、流山がまだ町であった時に、現在の株式会社マルタカの前身である「高橋加工所」を創業され、昭和61年6月に流山工業団地協同組合が設立された当初から、組合の中心的メンバーとして工業団地づくりに携わり、平成5年5月には、同組合の理事に御就任されたのち、平成13年5月からは理事長を歴任され、同組合の役員として平成29年5月までの24年間にわたり、工業団地の発展の礎を築かれました。

高橋様は、そのリーダーシップをいかんなく発揮され、組合運営の充実、組合員企業の経済的地位の向上、労働者福祉の増進、地元雇用の創出など、工業団地と地域経済の発展に御尽力されました。さらに、平成22年4月の流山商工会議所設立当初から令和元年11月まで、同会議所の常議員を務められ、市内商工業の育成・発展に御尽力されました。

こうした高橋様の多大な御功績が認められ、平成24年には中小企業庁長官表彰、平成26年には経済産業大臣表彰、平成28年には黄綬褒章ほか、数々の名誉ある表彰を受賞されました。

本市からは、平成19年に「流山市市制施行40周年記念 産業功労者表彰」、平成29年に「流山市市制施行50周年記念 産業功労者表彰」を、また、平成27年には本市最高の顕彰制度であります「流山市表彰条例に基づく産業功労表彰」をお贈りし、その栄誉を称えさせていただきました。高橋様の、思いやりに満ち、周囲の人を元気にする御人柄と、市内産業の発展のために全力を注がれたお姿は、多くの方々の心に残り、市内で商工業を営まれる方々の良き道標として受け継がれていくものと存じます。

流山市では現在、「都心から一番近い森のまち」として、緑を活かした良質なまちづくりをすすめるとともに、少子高齢化に伴う人口減少を見据え、子育て世代から選ばれるまちづくりに取り組み、若い世代を中心とした人口が増加し続けております。

私は、高橋様がこよなく愛されたこのふるさと流山を、より一層誰からも愛されるまちへと発展させるために、全力で取り組んでまいり覚悟でございます。

高橋様の生前の御功績に対し、心から感謝を申し上げますとともに、ここに謹んで哀悼の意を表し、衷心より御冥福をお祈り申し上げまして、お別れの言葉といたします。

流山市長 井崎 義治

悼 辞

祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり
沙羅双樹の花の色 生者必滅の理ありと。

いかに生者必滅の世とは言いながら、九十余才の私が故高橋啓治さんの御霊前に悼辞を捧げる日が来ようとは露にも思いよりませんでした。それが現実となつてしまい誠に残念と言いますより口惜しさで一杯であります。何で何でと身をもがくばかりであります。

生涯忘れることはありません十一月十一日。

高橋さん。貴方の奥さんと熊本忠夫さんのはからいで、電話によるお話合いの機会をもうけていただきました。その時「負けるなよ、負けるなよ」と夢中で呼び掛ける私に、高橋さんは力強い声で「はい頑張ります」と対応して下さいましたよね。この会話を最後に二度と貴方の生の声を聞くことはできなくなつてしまいました。

そして十二月八日早朝、熊本さんからの貴方の訃報に接し絶句した次第であります。まさに「花のいのちは短くて苦しきことのみ多かりき」であります。

何故に神は人に二物を与えることを拒むのか。神すら恨めしく思われます。人力の抗し難く、それこそ生者必滅であります。静かに踏みしめて来し、足跡をかえりみる悲しみであります。

さらに寂寥の中に「人が一代のうちに成し得る仕事には、おのずと限界がある」と、のたまう神の声が聞こえてまいります。

昭和十五年四月四日、山形県東村山郡山野辺町に生を受けた高橋さんが地元の商業高校を卒業後、昭和三十四年四月青雲の大志を抱いて流山市内の企業に就職、昭和四十一年四月精励努力の結果高橋化工所を起業し独立。常に先見性と、創業と守成の基礎業務の確立に精励し、その人となりの包容力を以て、企業の充実と発展に大きく磨きを掛けて、平成二年に株式会社マルタカに社名を変更致しました。

時あたかも、流山市では昭和五十六年住公混在を解消するため、工場の集団化をする調査研究が行われまして、その集団化事業に参画し、平成三年五月工業団地に進出、市内五ヶ所に分散しておりました工場を工業団地に集約し、印刷、スリット加工一貫体制を構築してゆきました。平成十九年に環境・衛生面に配慮した工場の増設、平成二十四年工場・倉庫の改築、平成二十六年ドライラミネート印刷機を導入し、受注対応力の強化を図り、「関東にマルタカあり」と言われるまでの企業に育て上げました。

一方団体役員としては、流山工業団地協同組合の代表理事、千葉県中小企業団体中央会 副会長、全国工場団地協同組合連合会 会長を歴任。その集大成として黄綬褒章の授与の栄にかがやきました。

神の掌中を飛び出した林檎少年は、立志伝中の英雄と昇華致しました。幽明境を異にして、はじめて刎頸の友の更なる偉大さに瞠目した次第であります。お疲れさまであります。ありがとう。ありがとうございました。

高橋さん。啓治さん。どうぞ高い高い初空の花園の褥に静かにお休み下さい。そして奥さまをはじめとするご遺族はもとより、マルタカの皆さまに厚い御愛護を賜り下さい。更には流山工業団地各社のますますの発展に御加護を、流山市の発展にも優しいまなごしをもってお守りを賜りますことをお願いしお別れといたします。さようなら。さようなら。

乗る雲をゆるりと遣れや林檎晴れ 大吉郎

秋元大吉郎

弔 辞

流山工業団地三代目理事長マルタカ(株)会長高橋啓治さまのご霊前に謹んで弔辞を捧げます。

挨拶したのも36年前ですね「高橋さん、菊地です。」と言えば、「山形生まれの名は梯子の高橋です。」と今でもその返事を鮮明に思い出します。私も同じ東北の秋田なので、親しみを感じ、頼りになる先輩として、長きに渡りご指導賜りありがとうございました。

高橋様の団地の歴史を顧みますと、

流山工業団地協議会チャーターメンバー 1984年

流山工業団地協同組合理事 1993年 4年

〃 副理事 1997年 4年

〃 三代目理事長 2001年 16年

〃 顧問 2017年 3年

当組合の役員として長きに渡り活躍され、発展の為に尽力されました。

その他に、外部団体の役職として歴任されました。

千葉県中小企業団体中央会 副会長

全国工場団地協同組合連合会 会長

全国中小企業団体中央会 常任理事

千葉県火災共済協同組合 理事

松戸商工中金会 会長

流山商工会議所 常任理事

流山中央ロータリークラブ 会長

東葛テクノ会 副会長

多方面で活躍され、皆さんから尊敬されておりました。高橋さんは人に頼まれると期待を裏切らない人柄で、いつも仲間に寄り添い、優しい笑顔は永遠に忘れません。

流山工業団地の三代目理事長として16年間色々あったと思います。引き継いだ時の組合員が21社ありましたが9社退会し、この激動の中、3社入会され15社に落ち着きました。これも高橋さんの理事長としての統率力・最強のリーダーとして今後歴史に残り、語り継がれていきます。

最後になりますが、(株)マルタカ遠藤社長を中心として会長の指導経営を守り発展することでしょう。高橋さんの一番の宝物三姉妹も仲良く、奥様も頑張っておりますので、安心してゆっくりお休みください。

ご冥福をお祈りいたします。

流山工業団地協同組合 理事長 菊地 憲悦

高橋啓治 前理事長を偲ぶ

12月8日未明、電話が鳴る。

それは、千枝子夫人からの訃報だった。

3年半以上に及ぶ闘病生活で、その重篤さを知る私自身もある程度の覚悟は出来ていたつもりだったが、いざ知らせを受けてみると、万感の思いがこみ上げてきて、結局、朝まで眠りにつく事が出来なかった。

思い起こせば40年近く前、協議会の時代がお付き合いの始まりであった。正式にはとても長い会の名称であるため、誰もが略称で呼んでいた。やがて協議会が発展的解消し、流山工業団地協同組合としてスタートした。

大きな夢と希望と大きな不安の毎日で計画が具体化し実現化する程、夢と希望と不安が増幅してくる。何しろ各社共に今まで経験した事のない大きな投資であるからだ。まさに「住工混在」ならぬ「夢と希望と不安の混在」である。

そんな時の一番の不安解消法は、組合の仲間との交流であった。数多くの会議そして飲み会、ゴルフ、麻雀等々、兎に角一緒に居るだけで楽しく、不思議と気持ちが落ち着いたことを思い出す。冗談で「赤信号、皆で渡れば怖くない」なんて言いながら。

それでいて「投資計画書」、「償還計画書」の通り業績を伸ばす事が必須条件である。償還が終わった今、振り返ると、共に若かったし、一番充実していた頃であったように思う。無我夢中で仕事をした時期でもあった。

それ故、当時のメンバーのことを無二の戦友と思っているのは私だけではないだろう。

随分とゴルフで取られたが、それでも楽しかった。麻雀で少し取り返した。それも楽しかった。

出張帰りの飲み食べ歩きも、また楽しかった。

良くゴルフ旅行も行った。二人でキャディさんのオナカの皮がよじれる位、笑わせた。掛け合い漫才みたいと言われたが、相手以上に我々もそれを楽しんでいるのに…

馬が合うとはこう云うものかと、今更ながらに思う。

お互い企業オーナーとして「人・もの・金」の話は良くした。考え方に多少の差異があっても、それはそれだ。

ライバル視をして、いつかは追い付くつもりで精一杯頑張ったが「マルタカ」の背中を遠くに見るばかりで、高橋さんは逝ってしまった。

若くして現在の「マルタカ」を立ち上げ、まさに命がけで会社を繁栄させ、守り抜いた高橋啓治さん。

泉下で見守って欲しい。

遠藤社長と啓美副社長が「マルタカ」を発展させ続ける姿を。

株式会社初石鈺金 代表取締役会長 熊本 忠夫

謹んで、三代目理事長 高橋啓治様の

ご冥福をお祈り申し上げます。

栄光産業株式会社	代表取締役	岩佐	祥一
キクチ株式会社	代表取締役	菊地	潤
株式会社サンオー	代表取締役	大塚	秀高
サンコーテクノ株式会社	代表取締役	洞下	英人
有限会社澤地シェルモールド	代表取締役	澤地	雅彦
株式会社スイコー	代表取締役	角谷	義隆
株式会社鶴田食品千葉	代表取締役	山本	義勝
有限会社長浦製作所	代表取締役	長浦	謙太郎
株式会社初石鋳金	代表取締役	熊本	匡史
株式会社ファンケル美健	代表取締役	柳澤	昭弘
マックスプル工業株式会社	代表取締役	小野	幸一
有限会社三隈製作所	代表取締役	長尾	弘
宮田硝子株式会社	代表取締役	宮田	修
株式会社ユーワ	代表取締役	伊東	秀幸
流山工業団地協同組合	専務理事	長橋	敏男

流山工業団地協同組合

編集・発行：におどり次世代会

〒270-0107 千葉県流山市西深井1028-46

☎ 04(7153)3001